

ナシヒメシンクイの越冬世代が多く発生しています

落花期（4月下旬）の薬剤防除を確実に実施しましょう

[現在の発生状況]

4月中旬現在，県予察圃（笠間市）に設置したフェロモントラップへのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺数は多発生した昨年よりも多く（図），4月第3半旬までの総誘殺数は過去11年中3位である。

地区予察圃（かすみがうら市）に設置したフェロモントラップへのナシヒメシンクイ雄成虫の4月第3半旬までの総誘殺数は，過去5年中2位である。

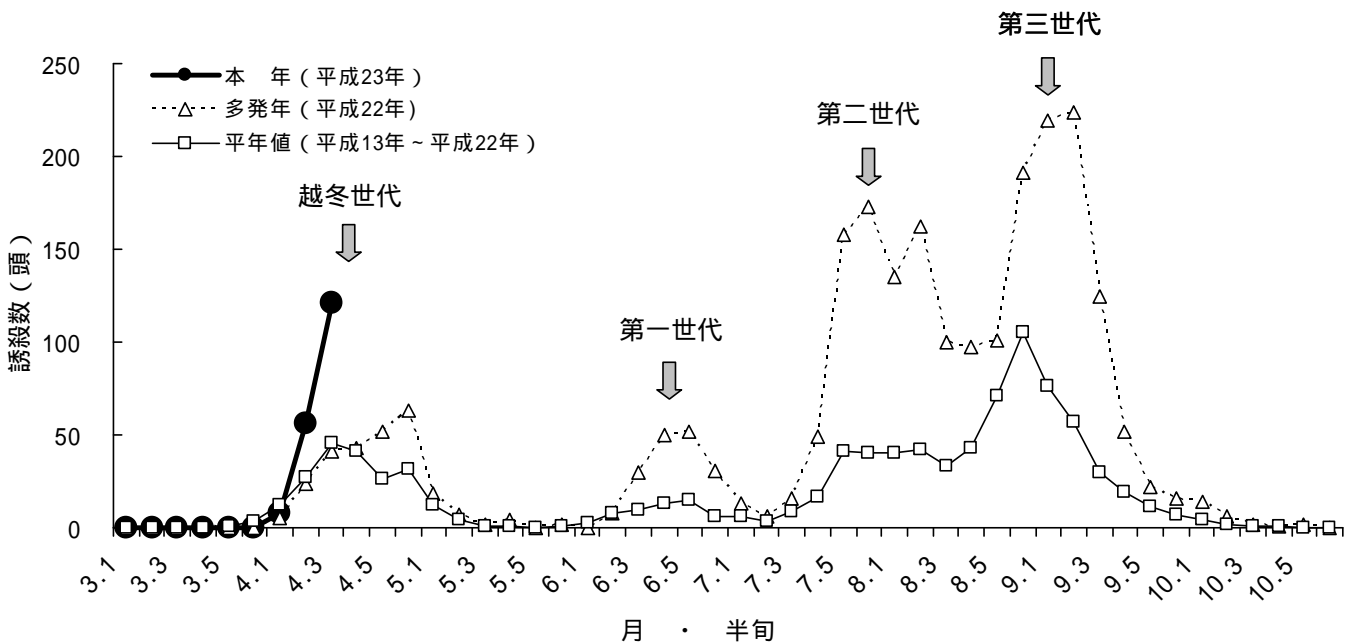


図 フェロモントラップによるナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺数の推移（笠間市）

[防除対策]

ナシヒメシンクイは世代を重ねるほど発生量が多くなるので，平成23年版赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例を参考に，落花期（4月下旬）のダイアジノン水和剤34の薬剤防除を確実に実施する。

コンフューザーNを使用する場合は，5月中旬までの早い時期に150～200本/10a設置する。

薬剤散布は，10a当たり300リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部など，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。



ナシヒメシンクイ成虫